

長岡税務署長賞

関わりのある税金とない税金

長岡市立江陽中学校

三年 佐藤 陽菜

税金。誰もが知っている言葉だけれど、内容は知らない人が多いだろう。私は、税金には二つの種類があると思っている。一つは私たちに直接関わりのある税金。例えば、教科書、学校の机、椅子。年金、医療費など、生まれた時から私たちは税にお世話になっている。

もう一つは直接関わりのない税金。つまり、あまり知られていない税金の使い道だ。私はこの作文を書くために調べてとても驚いた使い道があった。それは「海外への経済協力」だ。世界の先進国である日本は開発途上国を支援していたのだ。もちろん、災害などが起こった時に逆に支援してもらったり、日本の認知度や親日度が上がり、日本の国際的なステータスが上がるなどのメリットがある。

私は税について調べて初めて、税金は日本国民だけでなく、世界の人々のためにも使われていることを知った。私たちは税金のおかげで何不自由なく幸せに暮らしていると思う。それは、国が教育に必要なお金や、公共事業、ゴミ処理など国民のために使ってくれているからだ。しかし、私たちが支払っている税

のおかげで少しでもよりよく暮らせるようになった人が世界にいると思うと、なんだか自分がいいことをした気持ちになれた。私にとって当たり前の暮らしを羨ましいと思う人達がいっぱい何十万、いや何億人いるのだろうか。このすごく発展している時代にそういう人たちがいることがあまり実感を持ってない人がたくさんいると思う。しかし、そういう人たちにもこんな税金の使い方をしているということをぜひ知ってもらいたいと思う。

二〇一九年十月一日。消費税率が十パーセントに引き上げられた。当時の私は税についての知識などなく、ただ「やだなあ。」くらいに思っていた。しかし今の私だったら「税金が上がるのは大変だけど、高齢化が進んで年金が大変だったり、するのかもしれない。」と考えただろう。

税の作文を書いて思ったことがある。それは「知識は大切」ということだ。書く前と今で税についての考え方が大きく変わったと思う。「関わりのある税金とない税金」しかし、ない税金と書いていてもこうして調べてみると案外関わりがあったり、いいことをしている気持ちになれたりする。ぜひ多くの人に税金について調べてほしいと思う。きっと発見があったり、幸せな気持ちになれると思う。そして感謝の心ができるだろう。